

| | | | |
|---------------|---|-------------|-------------------|
| 授業科目名 | 幼児水泳指導実習 | 担当教員名 | 加藤 裕二 |
| 必修/選択 | 選択 | 開講学年・学期 | 2年 後期 (年間開講数 1講座) |
| 科目区分 | 児童体育に関する科目 | 単位数 | 2単位 (30時間) |
| 施行規則に定める科目区分等 | | 授業方法/担当形態 | 実習 / 単独 |
| | | 特記事項 | |
| 授業の概要及び全体目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期～児童前期の子どもの発達とコミュニケーションスキルを理解し実践する。 ・幼児期～児童前期の動きの発達とスキルの獲得を理解し実践する。 ・ジュニア期のスポーツの考え方を理解する ・スポーツクラブの実際の指導現場に出て、以上のことがなされている様子を観察、理解し体験する。 ・幼児期～児童前期の子どもの発達と水泳のスキルの獲得している様子を観察、理解する。 ・指導案の作成、各種目の特徴を生かし子どもたちに "できた" 喜びを教える経験を積む。 | | |
| 到達目標 | <p>I、水泳というスポーツに特化し、幼児期～児童前期の子どもの動きの発達とコミュニケーションスキルを理解し、水慣れから競泳のクロールまでの指導を実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指導法の実践を体験し、水の特性や安全面を理解するとともに、実践指導を行う。 ②水泳の補助法を体験し、水の特性や安全面を理解するとともに、実践指導を行う。 ③実際に指導案を作成し、指導プログラムの流れに沿って実践指導を行う。 ④指導現場におけるコミュニケーションスキルを再認し、コミュニケーションスキルを使つての実践指導を行う。 <p>II、幼児期～児童前期の子どもの発達と水泳のスキルの獲得している様子を観察、理解する。</p> <p>III、指導案の作成、各種目の特徴を生かし子どもたちに "できた" 喜びを教える経験を積む。</p> | | |
| テキスト | 「水泳指導教本」日本水泳連盟【(大修館書店)】 | | |
| 参考書・参考資料等 | 「運動遊びカリキュラム通信」(運動保育研究所) | | |
| 成績評価の方法 | 授業参加意欲…30%、受講態度…30%、レポート試験…40% | | |
| 授業計画 | 授業の内容 | 到達目標番号 | |
| 第1回 | ガイダンス 幼児の動き(動線)を確認/水泳指導の経緯の紹介 | I, II, III | |
| 第2回 | 指導法の実際 ・水遊び ・水慣れ ・顔つけ ・バブリング ・けのび ・壁キック | I, ① II | |
| 第3回 | 指導法の実際 ・板キック ・綿かぶりキック ・けのびキック ・ノーブレイクロール ・クロールコンビ | I, ① II | |
| 第4回 | 指導法の実際を理解した実践指導 (・水遊び ・水慣れ ・顔つけ ・バブリング ・けのび ・壁キック) | I, ① II III | |
| 第5回 | 指導法の実際を理解した実践指導 (・板キック ・綿かぶりキック ・けのびキック ・ノーブレイクロール ・クロールコンビ) | I, ① II III | |
| 第6回 | 補助法の実際 水慣れ～バブリング けのび～けのびキック | I, ② II | |
| 第7回 | 補助法の実際 ノーブレイクロール～クロールコンビ | I, ② II | |
| 第8回 | 指導法の実際を理解し、補助法を使つての実践指導 (水慣れ～バブリング けのび～けのびキック) | I, ② II III | |
| 第9回 | 指導法の実際を理解し、補助法を使つての実践指導 (ノーブレイクロール～クロールコンビ) | I, ② II III | |
| 第10回 | 指導案の作成方法と指導プログラムの流れ | I, ③ II III | |
| 第11回 | 指導案の作成方法と指導プログラムの流れを使つて実践指導 | I, ③ II III | |
| 第12回 | 指導現場におけるコミュニケーションスキル | I, ④ II | |
| 第13回 | 指導現場におけるコミュニケーションスキルを使つての実践指導 | I, ④ II III | |
| 第14回 | 指導実習のまとめ (準備運動、補強運動の重要性の理解) | I, II, III | |
| 第15回 | 指導実習のまとめ (指導実習全般) | I, II, III | |
| 定期試験 | レポート提出 | | |